

労使関係研究協会第25回労働講座

民主的労働運動と共に

＜自分の背負った労働運動を、次の世代に伝える責任として＞

元ゼンキン連合 書記長・副会長 相馬 末一

1. 労働運動のいろはを学んだ神金時代

＜昭和38年2月、総同盟・全金同盟神奈川金属労働組合（神金）入局から、昭和45年3月・全金同盟本部移籍までの間＞

当時の神金には総同盟精神が色濃く残り、県下に大きな勢力を有していた。

感銘を受けた言葉の持つ意義

労働組合は人生の道場

労働運動は人に会ってなんぼの世界

現場主義・実践

相互扶助（共済活動）

民主主義の徹底

オルグとは

人間修養の場

人と人との絆を紡ぐ活動

（オルグの基本）

人材育成の道

連帯活動の基本

民主的労働運動の命

労働組合の生命線

2. 組織拡大に奔走したオルグ人生（オルグー筋）

＜喧嘩売ります、買いますの心で取り組んだ組織活動＞
（社会正義を貫くことを基本として）

(1) 地方組織の形成と組織拡大

<開拓精神に燃えて>

① 構造変化への対応（企業移転、新工場建設）

② 中立労組の加盟

③ 地域組織への直加盟

④ 中小を中心とする新組合結成

(2) 中小労働運動の強化と育成

<全金同盟が真価を発揮した分野>

① 日常活動を通じての支援と指導

② 生産性向上運動と社会規範の形成

イ 労働協約の締結促進

ロ 労使協議制の確立

ハ 雇用優先と労働条件確保

ニ 技術革新への対応

③ 政策要求と政策活動による支援

イ 中小関係法の充実と拡充

ロ ものづくり基本法の制定

(3) 名称変更と組織拡大（多様性、多面性の視点）

<組織活動は柔軟思考優先で>

①複合産別化への道を

②中立大手、業種別組織に留まる中立労組

③在野の大手未組織企業の組織化

(4) 倒産・合理化への対応

①具体的作業と支援活動の強化

②雇用確保闘争による組織維持

③雇用関連法と、会社更生に関する法の充実と拡充

- (5) 業種別組織との連携強化

3. 民主化運動の推進と人材育成

- (1) 東京計器・日本電子・北辰電機の民主化闘争
- (2) 民主化闘争は地域の民主化に結び付く
- (3) 人権闘争も忘れるな

※民主化運動は身も心も、込めた人の絆を強める。

4. 本山争議は何を語り、伝えたのか

<正しいあるいは正常な労働運動とは何かを発信した争議>

- (1) 労働組合はなぜ必要かを問うた
 - ① 働くこと ②人間らしく生きること ③団結することの重要性
- (2) 勘定＝感情のバランスのとれた労使関係こそ、健全な労使関係

(3) 左右対立と相違点の確認

使用者	対等	協力関係	建設	改革	交渉	代表民主主義	議会主義	民主主義	労政区分	民主的労働運動
資本家	階級対立	敵対関係	破壊	革命	闘争	直接民主主義	議会軽視	独裁	労政混合	左翼労働運動

5. 統一の達成は未来志向で

- (1) 事前準備は徹底して進める
- (2) 統一運動は組織拡大のチャンス
- (3) 相違、不安の解消は未来志向で克服を
- (4) 統一の所産は活かしてこそ意義あり

6. その他

略 歴

氏 名 相馬 末一
生年月日 1940（昭和15）年8月21日

組合歴

昭和38年2月 全金同盟神奈川金属入局
昭和45年4月 全金同盟本部へ移籍
昭和60年9月 同盟本部へ出向
昭和62年11月 同盟解散により全金同盟本部へ
平成1年9月 全金同盟副書記長
平成5年9月 ゼンキン連合書記長
平成9年9月 ゼンキン連合副会長
平成11年9月 JAM 参与

公職

平成4年7月～平成12年12月 婦人少年問題審議会委員
平成5年2月～平成12年12月 中央職業安定審議会委員
平成13年1月～平成14年3月 労働政策審議会臨時委員
平成14年6月～平成16年1月 労働政策審議会専門委員

職歴

平成8年6月 (株)友愛会館取締役就任
平成10年6月 同社社長就任
平成24年6月 同社会長就任
平成26年6月 同社会長退任

以 上